

10年後、20年後の町の未来を見据え、 今回の任期中にその礎を築くことが、 私に課せられた使命

7 スポーツ・健康・福祉で 益城クオリティを確立

町民の皆さまが生き生きと活躍されるためには、健康であることが一番です。

そのため、全国レベルのスポーツ大会を誘致し、スポーツを通して町民が感動や喜びを分かち合える機会を増やし、心と体の健康増進を図ることができるよう「スポーツの活性化」に取り組みます。

さらには、「高齢者も元気で活躍できるまちづくり」の実現のため、生活習慣病を未然に防ぎ、生き生きと生活し、生涯にわたり活躍できるように、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした健康づくり活動を盛り上げていきます。

また、「おたがいさま精神で支えあう地域づくり」として、地域包括ケアシステムを充実させ、認知症の方々を地域みんなで見守りあう環境を作るとともに、高齢者がスマートフォンなどのデジタル機器に慣れ親しめるようにサポートします。

8 行政サービスを もっと便利でスマートに

「行政手続きのスマート化」につきましては、国のDX推進の状況を踏まえながら、積極的に行政サービスのデジタル化を進めてまいります。

特に、来年5月に開庁を予定しております役場新庁舎におきましては、一部ライブイベントに関する手続きのワンストップ化を導入し、「書かせない・待たせない」窓口を目指します。

また、行政手続きのオンライン化を進めることで、町民の皆さまが、役場へ出向くことなく各種申請・届け出ができるようにし、子育て世代から高齢者まで幅広い世代に利便性を感じていただける取り組みを進めてまいります。

さらには、町税や役場窓口での手数料、町有施設使用料などの支払いにキャッシュレス決済を導入し、スマートフォンなどで簡単・便利に支払いができる環境を実現します。

本町の財政状況は、熊本地震の影響

響を大きく受け、今後かなり厳しい状況になることが見込まれており、財源基盤の強化・自主財源の確保は喫緊の課題です。そのため、スリムで健全な行政運営を進めることが重要であり、事務事業の効率化や経費削減などにより財政運営を支える基盤を固めつつ、未来への投資に必要な財源確保のため、「ふるさと納税」のさらなる拡充を図るとともに、企業誘致や定住促進に積極的に取り組んでまいります。

最後に

熊本地震から6年が経過しました。その間、日本全国から多くの皆さま方のご支援をいただきながら、生活再建を第一に、若い世代の方々が益城町に「住んで良かった」、これからも住み続けたいと思え、誇りを持ってようなまちづくりの実現」を目指してまいりました。

その一方で、アフターコロナを見据えたIT化やDX化の推進、県道熊本高森線4車線化事業、益城中央被災市街地(木山地区)復興土地区画整理事業、阿蘇くまもと空港新ターミナルビルの開業、東海大学九州臨

空キャンパスの開校、県が主体となった医療・健康・食・スマート農業などの産業を集積したUXプロジェクトの進展、半導体関連企業TSMCの熊本県への進出など、町を

取り巻く環境は大きく変化しており、将来の発展につながる大きなチャンスが到来しています。

今こそ、10年後、20年後の益城町の姿を見据えた、未来につながるための「攻め」の行政運営が求められます。今回の任期中の4年間で、その礎を築くことが私に課せられた使命だと思っております。

また、いつの時代においても、まちづくりの主役は「町民」であります。さまざまな場面で町民、まちづくり協議会、行政などの機関が集まり「わいわい」言いながら話し合い、時には意見をぶつけ合いながら議論して方向性を決めるといふ、プロセスを大事にしたまちづくりの姿勢が「住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」、そして、「わくわくするようなまち」の実現につながります。そのためにも、議会と執行部そして町民の皆さまが一緒になって知恵を出し合い議論し、さまざまな施策に取り組みでいかなければなりません。

皆さまの深いご理解とさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。3期目に当たつての所信表明といたします。

益城町長 西村博則